11 月 26 日のメッセージ

聖書：エレミヤ書　23：　1－6

「牧者＝羊飼い」

二つの国があるとして、あなたはどちらの国に住みたいと思うでしょうか。

一つ目は人の言うことを全く聞かない、傍若無人に振る舞う王が治める国です。そこで出世するのは「王さえ良ければ」と持ち上げる者だけでしょう。そして、王の権威を笠に着て、自分の利益だけを追い求める者が溢れる国です。

もう一つは、仁徳に溢れる王が治める国です。小さな声が拾い上げられ、互いに仕え合うことを通じて社会が成り立っているから、わざわざ出世したいと望む者は少なくなります。そして、誰もが生きやすくなるように努力する人で溢れる国です。

自分の能力が高く、争いに勝ち抜く自信があるなら、一つ目の国も悪くないかもしれません。しかし、多くの人はそこに暮らし続けることが難しいと思わざるを得ません(「『災いだ、わたしの牧場の羊の群れを滅ぼし散らす牧者たちは』と主は言われる。」エレミヤ書 23:1)。

やはり、二つ目の国の方が、誰もが安心して暮らせるはずです。

でも、そんな理想郷はこの地上にはないと思うかもしれません。確かに今、私たちの生きるこの世界は、生き馬の目を抜くような生き方が賞賛され、自己責任の名の下に弱者が切り捨てられています。仁徳に溢れた王など夢のまた夢で、「自分さえ良ければ」という権力者でいっぱいです。

今こそ、真の平和と安寧を求める声は巷に溢れています(「慈しみの御業を示してください。あなたを避けどころとする人を／立ち向かう者から／右の御手をもって救ってください。」詩編 17:7)。

そして神は、混沌としたこの世界に必ず解決を与えると約束されています(「見よ、このような日が来る、と主は言われる。わたしはダビデのために正しい若枝を起こす。王は治め、栄え／この国に正義と恵みの業を行う。」エレミヤ書 23:5)。その約束の実現こそがクリスマスです。神はイエスを私たちに与えることで、真の平和とは何かを教えてくださいました(「イエスはお答えになった。『わたしが王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く。』」ヨハネによる福音書 18:37)。

「彼らを牧する牧者をわたしは立てる。」(エレミヤ書 23:4)

その時、人々と王との関係は、羊の群れと牧者=羊飼いとの関係に例えられます。

羊飼いは自分の利益を優先して、羊を危険な目に遭わせることはしません。むしろ、自分の身を盾にして外敵から守ってくれる存在です(「死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。あなたの鞭、あなたの杖／それがわたしを力づける。」詩編 23:4)。迷い出た一匹を探して、どこまでも探してくれる存在です(「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。……」ルカによる福音書 15:4-6)。

そのような羊飼いが共にいるから「群れはもはや恐れることも、おびえることもなく、また迷い出ることもない」(エレミヤ書 23:4)と、神は私たちの不安を取り除いてくださろうとするのです。

それでも、「今、イエスは一緒にいないではないか」と不安がまた首をもたげるのも確かでしょう。現実の非道さに、神の約束を信じ切ることが難しいのも確かでしょう。

しかし、歴史を通して働き続けられる神は、そしてイエスはいつ、いかなる時も私たちと共におられます(「神である主、今おられ、かつておられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。『わたしはアルファであり、オメガである。』」ヨハネの黙示録 1:8)。たとえ私たちの目に見えなくても、私たちが少しでも安心して過ごすことができるように、陰に陽に私たちを守っていてくださいます。

だから、今日も私たちは諦めることなく理想郷を目指すことができるのです。